

田舎館村 通学路交通安全プログラム

～通学路の安全確保に関する取組の方針～

平成 27 年 2 月

田舎館村通学路安全推進会議

1. プログラムの目的

平成24年、全国で登下校中の児童生徒が死傷する事故が相次いで発生したことから、平成24年8月に各学校の通学路において関係機関と連携して緊急合同点検を実施し、必要な対策内容についても関係機関で協議してきました。

引き続き通学路の安全確保に向けた取組を行うため、このたび、関係機関の連携体制を構築し、「田舎館村通学路交通安全プログラム」を策定しました。

今後は、本プログラムに基づき、関係機関が連携して、児童生徒が安全に通学できるよう通学路の安全確保を図っていきます。

2. 通学路安全推進会議の設置

関係機関の連携を図るため、以下をメンバーとする「通学路安全推進会議」を設置しました。本プログラムは、この会議で議論し、策定しました。

- ・ 田舎館村教育委員会
- ・ 田舎館村総務課
- ・ 田舎館村建設課
- ・ 中南地域県民局地域整備部道路施設課
- ・ 黒石警察署交通課

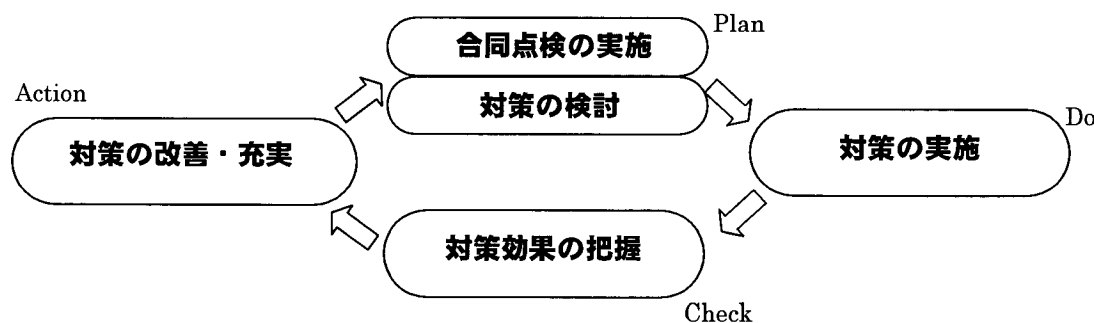
3. 取組方針

(1) 基本的な考え方

継続的に通学路の安全を確保するため、緊急合同点検後も合同点検を継続するとともに、対策実施後の効果把握も行い、対策の改善・充実を行います。

これらの取組をPDCAサイクルとして繰り返し実施し、通学路の安全性の向上を図っていきます。

[通学路安全確保のためのPDCAサイクル]



（２）合同点検

○合同点検の実施時期等

- ・ 随時、通学路安全推進会議において合同点検を実施します。

○合同点検の体制

- ・ 学校ごとに、教育委員会、道路管理者、村防災交通担当、警察が参加する合同点検を行います。

（３）対策の検討

- ・ 合同点検の結果から明らかになった対策必要箇所について、箇所ごとに、歩道整備や防護柵設置のようなハード対策や交通規制や交通安全教育のようなソフト対策など対策必要箇所に応じて具体的な実施メニューを検討します。

（４）対策の実施

- ・ 対策の実施にあたっては、対策が円滑に進むよう、関係者間で連携を図ります。

（５）対策効果の把握

- 合同点検結果に基づく対策実施箇所について、実施後の効果を把握するための手法を検討し、調査等を実施します。

- 例
- ・ 学校、地域住民へのアンケート又は聞き取り調査の実施
 - ・ 車両と歩行者の離隔を測定

（６）対策の改善・充実

- ・ 対策実施後も、合同点検や効果把握の結果を踏まえて、対策内容の改善・充実を図ります。

４．箇所図、箇所一覧表の公表

- ・ 学校ごとの点検結果や対策内容については、関係者間で認識を共有するために学校ごとの「対策一覧表」を作成し、公表します。